



農大



学んで而して

之を時習す

校長 河田 強

「学んで而して之を時習す。亦説ばしからずや」

「論語」の最初の章の言葉です。人としてさまざまなことを学び、学んだことは実際に実践してみる。それによって成功する時もある、失敗する時もある。その過程で「そつだ、こつすればよい。」と発見したり、本当の意味で理解できたり、それが大きな説びになるという意味です。

農業大学校でのプロジェクト学習は二年間の成長ぶりが判る学習の集大成、まさにこの「学んで而して」そのものです。プロジェクト学習に学生の自主的・主体的な学習意欲を持って取り組み、その学びを卒論としてまとめ、発表する姿は、皆堂々としています。時には失敗しても、そこから学ぶことができるのは学生の特権です。

「まずやってみる」が、課題解決の基本姿勢です。一生懸命やって考える「過程を大切に！」です。

卒業論文発表会開催!!

1月12日、卒業論文発表会を開催しました。本校では、学生が自ら設定した課題の解決を図る「プロジェクト学習」を教育の柱にしています。そのプロジェクト学習の成果を、養成課程の2年生21名がそれぞれ卒業論文としてまとめ、発表を行いました。

校内審査で金賞に選ばれた塩竹啓人くん、銀賞の初田優真くんは、鳥取農大の代表として、1月19日に開催された中国四国ブロック農業大学校等プロジェクト発表会に出場しました。今年度の中国四国ブロックのプロジェクト発表会も昨年同様、新型コロナウイルス感染症対策のためリモート方式で開催され、事前に録画した発表動画の視聴とオンラインでのリアルタイムの質疑により審査が行われました。惜しくも全国大会出場とはなりませんでしたが、二人とも審査員からの質問に堂々と答えていました。

金賞 **塩竹 啓人**
野菜コース

初心者でもできる
簡易軟白栽培技術の開発



前年度の意見発表に続き、プロジェクト発表会に出場しましたが、録画での発表で、自分の最大限の表現ができず、まだまだ未熟だったと痛感しています。しかし、良い経験が2年連続でできたことを、今後の糧としていきたいと思えます。

銀賞 **初田 優真**
野菜コース


コンパニオンプランツの
利用による農業の活性化に向けて



先生方や野菜コースの皆さんなど多くの皆さんに協力して頂き、本プロジェクトを良いものにする事が出来ました。今後もコンパニオンプランツの利用推進のため、継続して検討を進めていきたいと思えます。

銅賞 **山本 創**
花きコース

秋冬出荷トルコギキョウの
FR照射による冷蔵処理の代替効果



今回このような賞をいただき大変うれしく思います。この賞は決して自分だけのものではありません。先生や協力していただいた様々な方々のお力添えあってのものです。本当に感謝しています。ありがとうございました。

校内意見発表会開催!

11月10日、校内意見発表会を開催し、1年生28名が発表しました。農業に対する想いや将来の夢、就農に向けての決意などについて、自らの学生生活を通じ日頃考えたり感じたりしていることを交えて、それぞれの意見を述べました。

作物コースの馬田雄大くんは、1月19日にリモート方式で開催した中国ブロック農業大学校等意見発表会でも、事前録画した発表動画とオンラインでの質疑において、学校代表として堂々と発表を行いました。

校内意見発表会の受賞者

賞	コース	氏名	題名
最優秀賞	作物コース	馬田 雄大	「Myアグリビジョン」
優秀賞	野菜コース	中島貴紗蘭	「微力だけど無力じゃない」
優秀賞	畜産コース	小南つらら	「私の考える農業の夢」



ヤンマー学生懸賞作文の銅賞を受賞!

畜産コース1年 犬飼 悠希さん

畜産コース1年犬飼悠希さんの作文「夢ある酪農家を目指して」が、第32回ヤンマー学生懸賞論文・作文の「作文の部」に入選し、銅賞を受賞しました。今回は「農業を食農産業に発展させる」というテーマで、全国から478作品の応募がありました。1月21日にリモート開催された入選発表会では、金賞1名、銀賞2名、銅賞10名の発表が行われ、犬飼さんは作文に込めた思いと喜びのコメントを伝えました。

審査員の講評では、「3つのきっかけが自分を成長させていく過程がよく書けていた、限りある命だからこそ思い切って愛情を注ぐんだという気持ちができ、持ち続けていただきたい」との評価をいただきました。犬飼さん、本当におめでとうございます。



修農祭

今年度の修農祭は、コロナ禍にあって従来行っていた多くの外来者をお呼びしての農産物販売は開催が難しい状況でした。そのため、1日目の11月23日は、外来者を保護者と直近の卒業生に限定した「流通販売実習」として実施しました。新型コロナウイルス対策を徹底して、マスクの着用、検温や手指の消毒、飲食コーナーの消毒、席の間隔を広げるなど、学生も来場者も注意して行いました。

企画から運営まで学生が行い、各コースが露店を開き、たこ焼き風お好み焼き、焼き芋、焼きネギ、フライドポテト、フルーツポンチ、古代米もち、おこわ、枝豆、豚汁、焼き鳥などを販売しました。また、農大で栽培した梨や柿などの果物、白ネギや白菜、ナスなどの野菜、ストックやパンジーなどの花を販売し、学生たちにとっては自分たちが作った農産物をお客さんに対面で販売できる貴重な機会となりました。

2日目の24日は、学生会主催の特別活動として、各コースで企画した宝探し、大食い大会、クイズ大会、仮装ファッションショー、サバゲー、障害物競走などを行い、大いに盛り上がりました。

今年度も数々の学校行事や研修等が中止となり、学生たちは自粛生活を余儀なくされています。その中であって、今回の修農祭で保護者や親しい先輩にも会え、笑ったりはしゃいだりして、溜まっていたストレスも発散できたようです。

修農祭に多くの問合せをいただき、参加をお断りした皆さんには誠に申し訳ありませんでした。来年度は、新型コロナウイルスの状況にもよりますが、楽しみにしていただいている皆さんをお招きして農産物販売が行えるよう願っています。



GLOBAL G.A.P.の取組

本校では平成30年度からGLOBAL G.A.P.の知識の習得と実践に取り組んでおり、平成31年1月に日本梨で鳥取県内では初のGLOBAL G.A.P. 認証を取得したのを皮切りに、各コースで順次認証取得に挑戦しています。

今年度も一般社団法人GAP普及推進機構の専門家にアドバイスを受けながら、厳しい審査基準に沿うよう日頃の準備を入念に行ってきました。12月7、8日に認証審査が行われ、野菜コースの学生が「白ネギ」の2年目の認証取得に、花きコースの学生が「花壇苗」で初めての認証取得に向け、収穫・出荷調製作業の実演、書類等による審査員への説明を行いました。

そして、審査で指摘された項目の是正も行き、12月24日付けで「白ネギ」「花壇苗」の両品目で認証が取得できました。

GAPに取り組むことで、危険箇所の気づきと改善が随時行われるとともに、整理整頓などの基本の5S活動が身につく、記録やわかりやすい表示の重要さも理解できました。

来年度は「花壇苗」と併せて作物コースが「水稻」での新規取得を目指して取り組む予定です。

